

《水道ガブ飲み戦略2》

岩国市水道誕生 75 周年記念事業

小学校水飲み場整備事業

かつて、子供たちは、のどが渇くと蛇口をひねって水道水をガブガブ飲んでいました。しかし、今では水道水を飲まない子供たちも多くなっています。

一方、水道の給水量は、人口の減少や節水型社会の進展により、全国的に年々逡減傾向が続いており、特に輸入品を含めたミネラルウォーターの普及により、これに拍車をかけている状況です。

そこで、岩国市の水道水が、安心、安全でおいしい水であることをPRするとともに、蛇口の水を飲むことができる水道の歴史と文化を継承し、水道水をおいしく飲める啓発事業として、水道局の負担により、市内小学校の「水飲み場」を整備するものです。

また、この事業は、「大吟浄の水」の販売に続く、水道ガブ飲み戦略の第2弾と位置付けております。

- 1 事業名 小学校水飲み場整備事業
- 2 事業費 年 1,200 万円程度
- 3 整備学校数 年 3 校程度
- 4 整備期間 平成 26 年度～平成 30 年度
- 5 整備条件
 - ① 小学校の運動場周辺で、運動後に水分を補給しやすく、直結給水により水道水を供給できる場所があること。
 - ② 既設の改修または新設を行うもの。
 - ③ 水道局が整備した施設の寄贈を受け、適切な管理運営ができる学校であること。
 - ④ 各小学校の要望に基づいて教育委員会が調整し、水道局の承認を受けたもの。

※平成 26 年度整備予定校

- 麻里布小学校
- 愛宕小学校
- 灘小学校



(参考)

○岩国市水道の給水量推移

- ・ H17年度（合併時） 15,124 万m³
- ・ H19年度 14,906 万m³ △1.4%
- ・ H21年度 14,264 万m³ △5.7%
- ・ H23年度 14,160 万m³ △6.4%

※全国的な傾向ですが、給水量は年々通減傾向が続いています。

○水に関する世論調査（H20 内閣府）

- ・ 水道水をそのまま飲んでいる人 37.5%
- ・ 浄水器を設置して水道水を飲んでいる人 32.0%
- ・ ミネラルウォーターを飲んでいる人 29.6%

※ペットボトルの国内生産+輸入量は、最近 20 年間に約 6 倍に伸びています。おいしい水の感じ方には個人差がありますが、地域で生み出されている水道水を飲まない人が増えています。

○新水道ビジョン（H25.3 厚生労働省健康局）

これまでの国民生活や経済活動を支えてきた水道の恩恵を、これからも享受できるよう、今から 50 年後、100 年後の将来を見据え、水道の理想像を明示するとともに、その理想像を具現化するため、今後、当面の間に取り組むべき事項、方策を、国が示したもの。

《重点的な実現方策》

2-1 住民との連携（コミュニケーション）の促進

③ 環境学習、社会学習の場の提供

- ・ 将来を担う子供たちに、水道を正しく理解してもらう取り組みの推進を。
- ・ 水道事業者が県市町村の教育委員会や学校現場との連携により、水道の各種学習の場の充実を。

④ 飲料水へのニーズの多様化に対する活動

- ・ 蛇口の水を飲むことができる水道の歴史や文化を継承しつつ、水道水のボトル水を災害用や一般向け販売に利用するなど、広報のための積極的な活用を。
- ・ 水道水をおいしく飲める啓発活動などにより、水道水への意識を高める活動を。